

会津の鍛冶の調査研究とプロモーションのためのデザイン提案

会津若松市 堤製作所「姫鋏」の研究

A2201404 遠藤由紀

研究の背景 (または概要など)

会津若松市馬場町にある堤製作所で製作している姫鋏は、ブランド鋏として生産し販売されているが、農業の減少や震災の影響で需要が少なくなり鋏を利用する機会が減少し、それに伴い姫鋏の売り上げが減少している傾向にある。

現在、堤製作所は馬場町の姫鋏という鋏を作る技術があるということを知っていただくことができ、堤製作所や姫鋏を見知していただくことができたように考える。なにより、展示販売などは次につながられる結果になり、堤製作所にこれからの可能性を感じていただけたことが一番の成果になったのではないだろうか。

研究の目的

堤製作所は現在、女性の社長と職人を含めた5人ほどで経営をしている。前述のように鋏の販売は事務所で直接販売するか、電話での応答。それと金物店へ卸し、販売がされているが、パンフレットやインターネット上にホームページなどはなく、堤製作所を知るための機会や媒体がない。

本研究では、堤製作所の姫鋏を見知してもらうための媒体、パンフレットなどの制作、道の駅での展示販売を行い、それらを通して会津の堤製作所の姫鋏を見知してもらうことを目的とする。

研究方法



成果物 (完成作品)

- ▶ 堤製作所からの依頼品
 - ・ラベル (新商品 植樹鋏・草ぬきシャープル)
 - ・名刺



なおこのラベルや名刺などは、会社のロゴを改正しようと提案し制作したところ、現時点では商標登録、ラベル等の版下の一新は難しく、採用は見送られた。



展示ブースの制作

会津坂下町にある道の駅「あいづ 湯川・会津坂下」にて、12月の11・12・13日と展示・販売を行った。



展示ブースのデザインは、パネルを

- 高さ180cm
- 幅は各50cm、40cm、30cm、20cm

これらを各2枚ずつL字に留めたものを7つ作成し、屏風状に配置した。

道の駅「あいづ 湯川・会津坂下」では、道の駅に入って左手奥の場所に3m×3mほどのスペースを借りた。そこにL字のパネルを屏風状に配置し、堤製作所を紹介する写真やポスターなどを飾り、主に会津で使用される鍬や氷割りの鍬、天皇陛下に謹製された植樹鍬や井波先生に漆を塗っていただいた草抜きの小さい鍬などを配置した。

➤ 展示販売の実施

道の駅「あいづ 湯川・会津坂下」での展示販売は、対象が鍬であることや季節などの問題もあったが、自分の予想に大きく反し、多くの方に展示を見て頂き、想定を超える売り上げを上げることができた。

- ・展示を見た来場者 約170名
- ・各鍬を購入して下さった方 約25名
- ・売上数は、27挺、売上金額は、12万5,300円となった。

成果

- ・井波先生に塗っていただいた草ぬきシャープルに目を留めて来て下さった人が多数いた。
- ・東京の土木関係に携わっている方が、ジョレンに使う鍬を仕入れするか検討するという話や、ゼビオコーポレート株式会社の方に展示のお話をいただいた。
- ・道の駅「あいづ湯川・会津坂下」でも3月から4月にもう一度展示販売を行ってみたいかどうかと提案して下さり、次につながる話もいただけた。

反省点

- ・展示パネルの文字が思うより小さく、またパンフレットなど情報の媒体がなかったため、堤製作所や姫鍬の説明、鍬の特徴や種類、使い方などの説明があまりよく伝わらなかった。
- ・メイン看板がなかった。
- ・梱包など安全性を考慮できなかった。
- ・鍬を立てておくためのものをデザインして作ることができず、安全性などの問題があった。

まとめ

道の駅で展示販売をしたことにより、福島の会津若松に姫鍬という鍬を作る技術があるということを知っていただくことができ、堤製作所や姫鍬を見知していただくことができたように考える。なにより、展示販売などは次につなげられる結果になり、堤製作所にこれからの可能性を感じていただき、販売に対して自信を持ったことが一番の成果になったのではないだろうか。